

りそな 経済フラッシュ

(日本1-3月期GDP1次速報値)

◎注意事項をよくお読み下さい

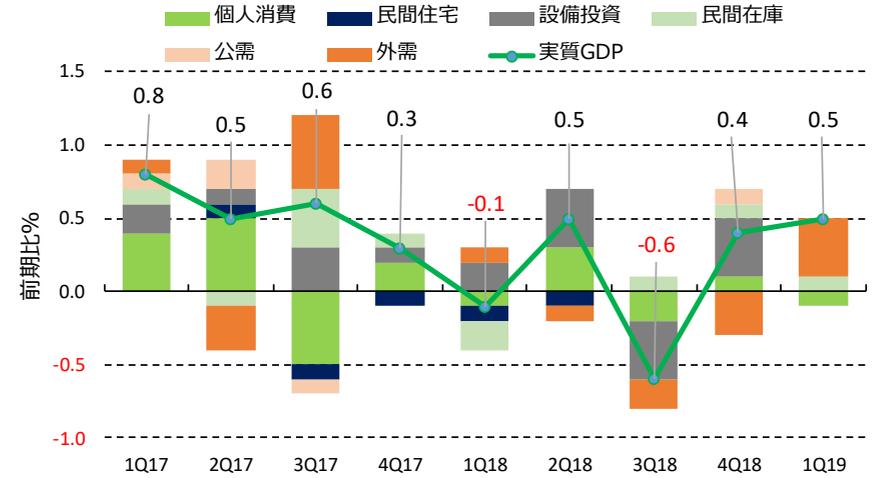


○概況

- ◆ 1-3月期GDPは前期比+0.5%と2四半期連続のプラス成長
- ◆ ただし個人消費、設備投資はともにマイナスで内容としては強くない
- ◆ GDPデフレーターは前年同期比+0.2% (10-12月期▲0.3%)

- ✓ 5月20日内閣府発表の2019年1-3月期実質GDP1次速報値は、前期比+0.5% (年率+2.1%)と市場予想(前期比▲0.1%、年率▲0.2%)を大幅に上回り、2四半期ぶりのプラス成長となった。個人消費は前期比▲0.1%、設備投資は同▲0.3%も、在庫や住宅がプラスとなり内需は辛うじてプラス。他方、輸出入ともに減少したものの、輸入の減少幅(GDPにプラス寄与)が輸出を上回り、外需はプラスに寄与した(右図)。GDPデフレーターは前年同期比+0.2%となった。
- ✓ 予想を上回った要因は設備投資が予想ほど悪くなかったこと。ただし、設備投資は2次速報値での改定幅が大きくなる傾向があり注意。
- ✓ **数字としてはプラス成長も、背景は内需の弱さや世界経済の停滞を背景とした輸入減少、在庫増加であり、内容としては決して強いものではない。**ただし今後は、増税前の駆け込み需要も一部に発生し、設備投資計画も依然として強いことから消費・設備投資は7-9月期には持ち直す可能性が高いとみられる。
- ✓ 個人消費は暖冬による冬物衣料の不振や新型モデル発売との兼ね合いもあり自動車販売が減少したことで、前期比▲0.1% (寄与度▲0.1%ポイント：以下%pt、10-12月期+0.2%)と2四半期ぶりにマイナス。耐久財消費が▲2.2% (10-12月期+2.3%)、サービス消費は▲0.1% (10-12月期+0.9%)。
- ✓ 民間住宅は前期比+1.1%と3四半期連続のプラス(寄与度+0.0%pt、10-12月期+1.4%)。消費増税を控えた駆け込みも一部に出ているだろう。
- ✓ 設備投資は前期比▲0.3% (寄与度▲0.0%pt、10-12月期+2.5%)。予想ほど悪くなかったものの、景気減速懸念を受けた設備投資の見送りによりマイナス。
- ✓ 公的需要は前期比+0.2% (寄与度+0.0%pt、10-12月期+0.3%)。政府消費が▲0.2% (寄与度▲0.0%pt)、公共投資が+1.5% (寄与度▲0.1pt)。
- ✓ 外需(輸出-輸入=純輸出)の寄与度は+0.4%ptと4四半期ぶりのプラス。輸出が前期比▲2.4% (10-12月期+1.2%)とマイナスも、輸入が▲4.6% (10-12月期+3.0%)と輸出以上に減少したため、外需の寄与度はプラスとなった。

【実質GDP成長率 需要項目別 (前期比)】



	前期比	2018				2019
	寄与度%pt	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
実質GDP		-0.1	0.5	-0.6	0.4	0.5
民需		-0.1	0.6	-0.4	0.6	0.1
個人消費		-0.1	0.3	-0.2	0.1	-0.1
民間住宅		-0.1	-0.1	0.0	0.0	0.0
設備投資		0.2	0.4	-0.4	0.4	-0.0
民間在庫		-0.2	0.0	0.1	0.1	0.1
公需		0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
政府消費		0.1	0.0	0.0	0.1	-0.0
公共投資		-0.1	0.0	-0.1	-0.1	0.1
公的在庫		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外需		0.1	-0.1	-0.2	-0.3	0.4
輸出		0.2	0.1	-0.4	0.2	-0.5
輸入		-0.1	-0.2	0.2	-0.5	0.9

【出所】内閣府、IN情報センター

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。